

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム 七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1 (電話) 0574-47-1071		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年2月12日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 5 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 5 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.3 歳	最低 80 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山際に立つこのホームは開設より3年を迎えようとしており、町内に初めてできたグループホームである。理念の「自分でできること・自分で選ぶこと」に沿ったケアを、エリア長と管理者の熱意に同調した地元の職員によって日々行われている。職員の1泊旅行に連れて行ってあげたいとの声に応え、レンタルバスをエリア長自らが運転し、職員が見守り、温泉旅館に行くことができ、利用者にも好評であった。利用者の思いに寄り添い、家族の心を理解し、管理者と職員は共にホームの暮らしを支えながら生活の場の実践をしている。終末期に関しては、家族の支えがあってこそと言い切るエリア長と管理者の考えにより、ホーム内の看取りは行わず、法人内の他施設を紹介している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題は4点であったが、1つひとつに改善の手が加えられていた。家族の意見を収集しやすいよう個別状況報告書の作成に取り組んだり、災害時の協力を地域に依頼できるよう、地域へ溶け込む努力など、外部評価を通してさらなる質の向上を目指す姿勢がある。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	今回の自己評価は職員から意見を求め、管理者がまとめ上げたものであるが、職員会議内でも話し合いを進め、円滑なホームの運営やケアの充実に役立っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度、定期的な運営推進会議が行政・地域包括支援センター・民生委員・家族代表などの参加で開催されている。ホーム行事や職員交代を報告したり、暮らしぶりの説明などを通し、地域に理解を求め、さらに災害時の協力体制にも繋いでいく計画が進んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月カラー刷りのホーム便りが家族に手渡され、利用者の担当者が聞き取った日々の様子や、なにげないつづやきを記載した「個別状況報告書」も作成している。家族からの意見や要望は迅速に対応し、ホームの運営と方針に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携は保育園児との交流や町内作品発表会などを通し、利用者が地域の一員として暮らすため、ホームからの働きかけを積極的に行っている。町の図書館に本を借りに行く場合や昔からの知人に会いに行く際は職員が付き添い、家族と離れて暮らす利用者の心に寄り添った支援を行いながら、地域への理解を深める取り組みをしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に地域密着型を明確にした文言はなく、「自分でできること・自分で選ぶことを大切に」と、個人の尊重に重きを置いた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	エリア長と管理者は、日常の業務が理念に結びついたものであることを日頃のケアをしている中で話し、職員の気持ちを一つにする取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根付いたホームとしての役割を認識し、夏祭りや保育園児との交流、町内の発表会に利用者の作品を提出するなど、利用者が地域の一員として溶け込んで生活することができるよう支援をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を考慮し、書きこんでもらったものを管理者がまとめ上げたものである。振り返りの作業から職員自身が再確認することもあり、自らの課題を発見したり、運営への反映にも繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町の担当者・包括支援センター職員・民生委員・家族代表等、多くの参加があり、ホームの行事案内や職員交代を報告し、会議前に利用者と共に行う手芸品作りやたこ焼き作りなどを通し、ふれあいながら会議を進めている。	○	運営推進会議はホームからの報告内容に留まらず、幅広い層の参加があることから高齢者を取り巻く課題や地域内の問題点などを通じ、様々な観点から討議する場となっていく事が望ましい。地域福祉情報の発信地として活性化されたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へは、ホームの入退居情報を知らせたり、ホームの抱える問題点や課題を行政に報告することで良好な関係性となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月カラー刷りのホーム便りの発信に加え、普段の暮らしぶりを各担当者が個別に家族に知らせ、利用者の健康状態やその日その日の生活を家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会の際などを利用し、担当者が利用者の様子を知らせている。日々の中から汲み取った新たな気づきは、今後、ノートを作成し、職員がその都度書き込める計画もしている。	○	「世話をして貰うだけで有り難い」という素朴な地域性であるためか、家族からの意見・苦情が出される率が低いが、家族が気軽に足を運べる雰囲気づくり、家族とのコミュニケーション構築から始め、急がず、徐々に家族との関係づくりに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、そのまま利用者に影響を与えることを深く認識しており、法人内の異動はほとんど見られない。また、職員の個々の状況にも配慮した勤務調整をするなどにより、職員の離職率も大変低い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員の勤務を調整し、積極的に参加を促し、職員とホーム全体の向上を進めている。また、法人内でも職員の習熟度や経験に応じ、様々な段階別の内部研修も行い、その報告会も全体職員会議で行って共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域的な問題もあることから、法人内のホームと定期的に情報や意見交換を実施し、相互のサービスの向上を図る取り組みをしている。また、管理者が研修で知り合ったホームに見学に行く計画もしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の生活歴や好みを聞き取るだけでなく、ホームや職員に馴染めるよう、体験入居も行っている。また、利用者に納得してもらった上で入居してもらうことに重きを置き、利用者の安心への対応に努めている。入居の際は本人・家族からの情報だけでなく、ケアマネジャーを通すよう依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の好みや現在の力量により、農作業や洗濯干しなどを手伝ってもらっている。同じ仕事を行いながら昔話を聞くこともあり、利用者に寄り添ったケアを日々継続している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を尊重し、日常の会話から意向の把握に努めている。畑仕事が好きな人には畑の苗植えや野菜の収穫などしてもらったり、行商をしてきた話を聞くなど、利用者の小さなサインにも気づき、一人ひとりの思いを優先できるように、と支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員が決められており、本人と家族から詳細な聞き取りを行って介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定期的な見直しに加え、3ヶ月、6ヶ月と利用者の現状に合わせ、その都度適切に変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は基本的に家族が行うが、必要時にはホームが同行することもある。本人に行きたいところを聞き、個別でドライブに出かけることもあり、利用者の思いに極力対応しようとの姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一律的にホームの協力医をかかりつけ医とするのではなく、本人・家族の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診をしている。緊急時の協力医による往診体制もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関しては入居時に本人と家族に確認を行っている。入居後も利用者の体調や状況変化に伴って随時必要な相談と話し合いを行うこととしている。グループホーム内で生活できない状態となった際は、あらかじめ予約してある法人内の他施設に移るなど、終末期に対しては明確な判断基準を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、同意書・確認書をもらうなど統一的な取り組みをしている。また、利用者の居室への入室やトイレ時にはさりげない声かけと言葉遣いによって配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおまかにあるものの、その人その人に合わせて自由に暮らせるよう支援をしている。起床後は、利用者が着たい服を自分で選び、着替えを行い、「自分で選ぶことを大切に」と理念に沿った生活ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者毎の力量に配慮し、下準備・配膳・下膳・食器洗いなどに参加してもらっている。食材の買出しは、職員と利用者が一緒に、外出を兼ねて行っている。職員は談笑しながら同じテーブルに付き、食事の介助をさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望により、午後と夜間に分かれて職員の勤務を調整して行っている。入浴拒否する人には無理強いせず、時間を空けて誘うなどの配慮を行うことで自然に入浴できるよう図っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や好きなことを、ホームの日常生活の中で活かせるよう支援をしている。毎朝のリビングの掃除は、掃除機をかける人、モップで拭く人など、それぞれが自分の役と認識し、自発的に行っていけるよう職員は働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援は買い物に加え、天候と相談しながらの散歩・図書館・寺参りなどを柔軟に対応している。職員から提案された1泊旅行には、エリア長も運転手として参加し、ホーム全体で利用者の楽しみを応援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は周知しており、基本的には施錠はしないが、土日など職員配置が少ない場合に、落ち着いた状態の利用者に配慮し、状態を見守りながら施錠をすることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導による避難訓練を行っている。前回の改善課題であった地域協力体制は、運営推進会議内でも取り上げ、徐々に協力が得られるような方向性となりつつある。	○	近隣住民の協力体制に加え、職員参集、役割分担、初動体制など、職員の防災意識を高める取り組みに期待したい。また、地域内の避難場所やその経路を家族に知らせておくこと・備蓄品飲料水の確保にも一考されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記録はないが、食事摂取量によって体調管理と健康管理を行い、利用者の状態に合わせた食事形態など柔軟に対応している。水分は飲みたい時に自由に飲めるよう工夫してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に囲まれた明るいきりびんぐでは、昼食が済んだ利用者が思い思いのソファで午後のひと時をのんびりと過ごしている。利用者の作品が玄関や壁に飾られ、調査当日も塗り絵に精を出す利用者の姿が見られた。一人になりたい時は居室で過ごし、日中はリビングで過ごす利用者が多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族や孫の微笑ましい写真やニコニコ笑顔のひ孫のカレンダーも飾られていた。ベッドはホームのものであるが、ロッカーや小タンスは本人の馴染みのものが持ちこまれ、本人が使いやすいように配置されていて個性ある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。